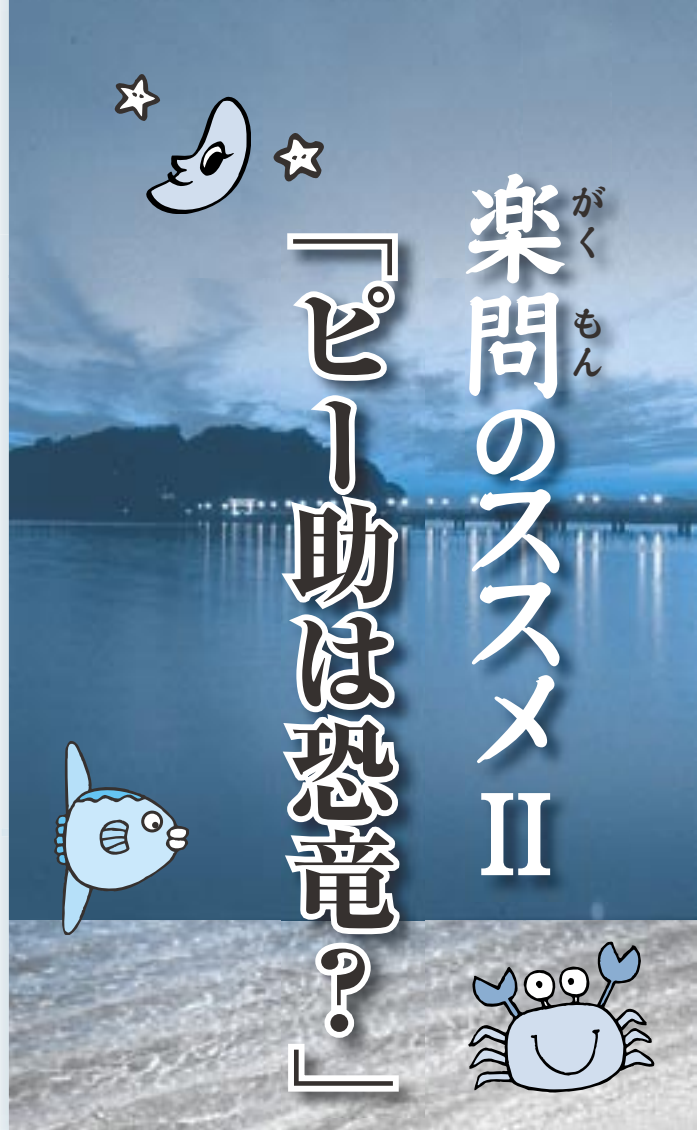


がくもん

楽問のススメII

「ピー助は恐竜？」



なんてっ たって恐竜♪

恐竜は、子供たちの永遠のアイドルです。

カードゲームの「恐竜キング」や「ダイノキング」ブーム、映画「のび太の恐竜2006」の公開など、今年も恐竜関連の話題には事欠きません。さらに、このブームを熱く盛り上げるかのように、この夏には、千葉・幕張メッセで行われる「恐竜博」を皮切りに、恐竜関連の催しが日本各地で開催されます。

恐竜映画は

冒険いっばい!

実は、この春公開された映画「のび太の恐竜2006」は、26年前に制作、上映された映画「のび太の恐竜」がリメイクされたものです。子供と一緒に見たお父さんやお母さんたちのなかには、懐かしさに思わず熱いものがこみ上げた方もいらしたのではないのでしょうか。

「のび太の恐竜」や「のび太の恐竜2006」は、子供たちが恐竜時代の世界で活躍する、冒険いっばいのストーリーです。この映画

海中を悠々と泳ぐ首長竜(想像)



をみた子供たちは、きっと彼らと一緒に冒険し、ピー助を守って恐竜時代を駆け抜ける気持ちになったのではないのでしょうか。そういう私も、26年前は、まさに映画に登場する子供たちと同世代であり、わくわくして見たものです。

ここで、映画を見ていない人のために内容をチョッと解説。「のび太が発見した恐竜のタマゴの化石に、ドラえもんの未来の道具、タイムふろしきをかぶせて1億年前の姿にもどすと、なんと、そのタマゴから首長竜(クビナガリウ)の赤ちゃんが誕生!ドラえも

んどのび太は、この首長竜を「ピー助」と名づけて育て始めます。やがてピー助は成長し、ドラえもんととのび太は、タイムマシンでピー助を恐竜の時代に返してあげることにしたのです。

恐竜の力、化石の力

生命の海科学館では、この春「のび太の恐竜2006」公開中に、「クビナガリウとさんぼキッズ」という企画を開催しました。映画の人氣もあってか、定員を超える子供たちから、応募がありました。そして、「のび太の恐竜2006」という映画を見た方は?という最初の質問にも、たくさん手があがりました。

しかし、この企画は、「実はピー助は、恐竜ではありません」という、子供にとってはちよっぴりショックな一言から始まったのです。生命の海科学館のホールに吊

